

北区と北区社会福祉協議会の共催による「北区全体会議」が開催されました

昨年の6月と10月に、各地区の社会福祉協議会・福祉のまち推進センター・民生委員児童委員協議会・町内会、そして北区老人クラブ連合会が集まり、全体会議を開催。今後もさらなるノウハウや情報の共有を強化し、地域の活動者が連携しながら取り組みを推進・実施していくことが確認されました。

「北区全体会議」の様子



北区では「地域の見守り、支えあい活動」を推進しています。昨年、さまざまな関係団体による連携と協力を目指した「北区全体会議（左参照）」が開催され、各地区では活動の輪が広がっています。今回はそんな地域でのさまざまな取り組みを紹介します。



大切なのは「つながり」

「この地域に多く住む高齢者の方を守るにはどうすればいいかを考えたことが、活動のきっかけでした」。そう話すのは、**新琴似一番西第二町内会**の久間義彦よしひこ会長。地域の高齢者世帯の数と場所を示した「福祉マップ」を作成し、担当者を決め、いくつかの区域に分けて訪問・見守り活動を積極的に行っている町内会です。「訪問するのもされるのも地域の人。そこで『つながり』

「お元気ですか？」

見守る、地域の福祉



福祉マップと連絡カード



が生まれます。それが最も重要なんです」と久間会長。見守りの方法は「電話相談」か「訪問」なのか、高齢者の方の希望を聞きます。各担当者は受け持っている区域について連絡カードに記入し、定期的に行う報告会に



福祉マップについて説明する久間会長

「おいて、みんなで内容を確認し、その後の対応について話し合うなど、活動には工夫も見られます。地域一体となった活動の中で「つながり」は確実に強まっているようです。

また同町内会は、活動をステップアップさせたいと考えています。久間会長は「町内会全体での連携強化や、行政・民生委員との情報共有を行うなど、もっとやれることはある。災害などにも対応でき、高齢者の方が安心して生活できる優しい地域にするために、努力していきます」と力強く話していました。



訪問すると、自然に始まる楽しい会話。こうして「つながり」が生まれます